

授業改善書

科目名	言語学
担当者	河須崎英之

授業の概要

毎日、当たり前のように使っている言葉も、実はその仕組みが分かっていないことがある。例えば、「コトバ」と声に出すように言われれば、何も考えずとも発音できるが、その時に実際どうやって音が作られているのか、意識することはほとんどないだろう。発音に限らず、自分の話している言葉をじっくりと振り返ってみると、面白い「気づき」があるはず。一番身近な「言葉」について考えるきっかけになるよう、言語学の基本的な考え方を講義する。

授業の問題点

大人数の授業のため、一方通行になってしまいがちである。アンケート結果を見ても、「質問への対応」に対する満足度が若干低くなっている。登校授業で出してもらう質問用紙や、オンライン授業でのコメントなどに書かれている質問には、授業の中で極力答えるようにしてきたが、隔週登校の授業形態の影響もあってか、学生が満足していくレベルには達していなかったようである。オンライン授業のレポートを **Forms** にしたのも、一方通行感が増してしまった原因かもしれない。ただし、レポートを双方向のものにしたからといって、人数的にすべての学生に対応しきれないかどうかは難しいところである。

学生の授業満足度

概ね、高い満足度を得ていると見受けられる。オンライン授業との併用であったが、登校授業の際にオンライン授業の補足説明があつてよかったという感想が多い。オンライン授業も、読む資料だけでなく、解説の音声をあげたのがよかったと思う。質問に対する対応については、上記で延べたとおり、充分でないと感じた学生もいたようである。

授業改善の課題と方策

メールなどのツールが発達していることもあり、教師と精神的に近い距離で学びたい、あるいはパーソナルなやり取りをしたいという学生が多くなっているように思う。質問への対応について、授業の中で触れるだけではなく、もっとメールを活用してもよいかもしれない。今学期も、個別のメールを送ってきた学生は何人かいたが、より窓口を広げ、積極的な学生がどんどんと学んでいけるような仕組みを作っていきたいと思う。

その他

登校授業とオンラインとの併用スタイルはある程度、枠組みが確立できたと思う。今後このような形態になった場合、今年度の実績を活かしてより満足度の高い授業を実践できるようにしたい。